



## 第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。  
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査  
☐ PCT規則12.4にいう国際公開  
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 \_\_\_\_\_ ページ/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表 (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル (具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

|               |               |   |
|---------------|---------------|---|
| 新規性(N)        | 請求の範囲 3,7,8   | 有 |
|               | 請求の範囲 1,2,4-6 | 無 |
| 進歩性(IS)       | 請求の範囲         | 有 |
|               | 請求の範囲 1-8     | 無 |
| 産業上の利用可能性(IA) | 請求の範囲 1-8     | 有 |
|               | 請求の範囲         | 無 |

## 2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

以下の文献1-5は、国際調査報告に引用した文献である。

文献1: JP 60-238830 A (ハーキュリーズ・インコーポレーテッド) 1985. 11. 27, 特許請求の範囲1,8,12, 第4頁右下欄下から10行-第5頁左上欄第12行, 実施例1, 2-5, 14, 15-16

&US 4563413 A &US 4666824 A

文献2: JP 2-135351 A (ヘキスト、アクチエンゲゼルシャフト) 1990. 05. 24, 特許請求の範囲1,6,7, 第8頁右上欄第10-16行, 例1 &EP 359060 A2

文献3: JP 2003-295426 A (アグファ・グヴェルト, ナームロゼ・フエンノートシャツプ) 2003. 10. 15, 請求項1-3, [0020], [0040], [0055], [0058], 実施例5 &EP 1349006 A1

文献4: JP 2000-214583 A (日立化成工業株式会社) 2000. 08. 04, 全文(ファミリーなし)

文献5: JP 5-11439 A (富士写真フイルム株式会社) 1993. 01. 22, 請求項1-4, [0017], [0039], [0045], [0053], [0054]

&US 5328803 A

(請求の範囲1、5及び6について)

請求の範囲1、5及び6に係る発明は、文献1-3に記載されているから、新規性、進歩性を有しない。

(請求の範囲2について)

請求の範囲2に係る発明は、文献3に記載されているから、新規性、進歩性を有しない。

## 第Ⅳ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 1－6 は、明細書によって十分に裏付けされていない。

周知成分のみを特徴とする組成物であり、バインダーポリマー、光重合性化合物、光重合開始剤は、一部のものの組み合わせが記載されているのみである。

その使用方法も、請求の範囲 8 に記載したこと以外は記載されていない。

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V.2 欄の続き

また、文献 4、5 及び文献 1－3 により、新規性、進歩性を有しない。

文献 4、5 には、成分 (D) が記載されていないが、文献 1－3 に記載された周知の添加剤である。

したがって、文献 4、5 に記載された請求の範囲 2 の成分 (C) と文献 1－3 に記載された成分 (D) を併用することは当業者にとって容易である。

(請求の範囲 3 について)

文献 4 及び文献 1－3 により、進歩性を有しない。

文献 4 には、成分 (D) が記載されていないが、文献 1－3 に記載された周知の添加剤である。

文献 4 に記載された請求の範囲 3 の成分 (B) と文献 1－3 に記載された成分 (D) を併用することは当業者にとって容易である。

(請求の範囲 4 について)

請求の範囲 4 に係る発明は、その酸価、分子量の限定は格別な文献 2、3 に実質的に記載されているから、新規性、進歩性を有しない。

また、文献 4、5 及び文献 1－3 により、新規性、進歩性を有しない。

文献 4、5 には、成分 (D) が記載されていないが、文献 1－3 に記載された周知の添加剤である。

文献 4、5 に記載された成分 (C) と文献 1－3 に記載された成分 (D) を併用することは当業者にとって容易である。

(請求の範囲 7、8 について)

請求の範囲 7、8 に係る発明は、文献 4、5 及び文献 1－3 により、進歩性を有しない。

文献 4、5 には、成分 (D) が記載されていないが、文献 1－3 に記載された周知の添加剤である。

文献 4、5 に記載された回路形成基板上のパターン形成方法に対し、文献 1－3 に記載された成分 (D) を併用することは当業者にとって容易である。